

中山参道と商店街(いちかわ景観100選)



【解説】古くからの寺町として落ち着いた面影を残している。店舗や住宅の修景整備など街並みの景観整備が行われた。



# 第11回市川市景観賞決定!

学校法人 千葉学園



建

学食棟「The University DINING」の設計・建築

外壁をガラス張りにすることで開放感を持たせるとともに、周囲と調和するように天井の梁に木材を配置し、居心地の良さを演出している。

ハイタウン塩浜第一住宅管理組合  
花クラブ・環境ボランティア



緑 清

花クラブ・環境ボランティアによる植栽管理活動及び清掃活動

生垣や花壇のガーデニング活動、周辺河川沿いの清掃・美化活動を実施し、良好で彩りある団地環境の維持・向上につながっている。



平成30年3月19日(月)市川市役所において、第11回市川市景観賞受賞者5組の表彰式が行われました。

ボラスガーデンヒルズ株式会社



建

「モダンカーサ市川市大和田四丁目景観協定」の締結によるまちづくり

自然を感じられる仕掛けでまちの広がり演出するとともに、住民同士のコミュニケーションの創出や緑化への意識醸成など魅力的なまちづくりの活動を行っている。

千葉商科大学  
DINING SERVICE DESIGN LAB



啓

「フォトログinいちかわ」の開催による景観啓発活動

学生が探し出した「市川市の優れた景観資源」をピックアップとして巡る事で、市内外の参加者に対して魅力を知らせてもらおうきっかけとなっている。

高松建設株式会社



建

共同住宅「Nextage」の設計・建築

建物外周部の緑化により緑豊かなまち並みを形成するとともに、バルコニー手摺をガラス張りにすることで透明性の確保は防犯に寄与する。



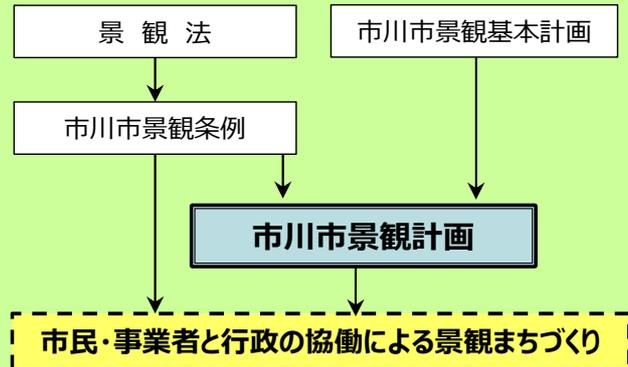
# 知っていますか？「市川市景観計画」

## 景観計画はどのようなもの？

◆ 市民・事業者・行政の協働により、魅力的な景観づくりを進めることが景観計画の目的です。

近年、心の豊かさや精神的なゆとりが一層重視されるようになり、都市空間についても魅力的な景観づくりが求められています。

そこで、積極的に景観づくりに取り組み、市民・事業者・行政の協働により魅力的な景観づくりの実現を推進するため、平成18年に具体的な方針等を記載した『市川市景観計画』を、景観法に基づき策定しました。



◆ 計画の「基本目標」は次の4点です。

- ① 水と緑を生かした、心地よい景観をつくります。
- ② 歴史・文化を伝える、風情のある景観をつくります。
- ③ まちの個性に彩られた、表情豊かな景観をつくります。
- ④ 快適性や安全性を基本として、市民参加により、生活風景を大切にしたい心に残る景観をつくります。

## 具体的な景観まちづくりのルールは？

◆ 市内を8つの区域に分け、それぞれの特性を生かした景観まちづくりを進めています！

基本目標の実現には、地域の成り立ちを理解しながら、地域の特徴的な自然や歴史的資源を生かし、守り、周辺環境と調和したまちづくりを進めていくことが大切です。

そこで、「地域特性を生かした景観まちづくり」を進めるため、次のとおり『良好な景観の形成に関する方針』を定めました。

『良好な景観の形成に関する方針』 = (共通方針) + (ゾーン別方針)

(共通方針) : (例) 建築物のゆとりある配置、スカイラインの連続性や外観デザイン・色彩の統一感に対する配慮など

(ゾーン別方針) : **景観特性による8ゾーン区分** (右ページ参照) ごとに設定。

(例) [自然と歴史の住宅地ゾーン] 植栽や生け垣化などにより、住宅地内の小さな緑を増やしていく、など

景観計画区域内(市全域)で建築物の建築などを行う場合には、**戸建住宅を含む全ての建築物**についてこの『良好な景観の形成に関する方針』に沿って行っていただく必要があります。

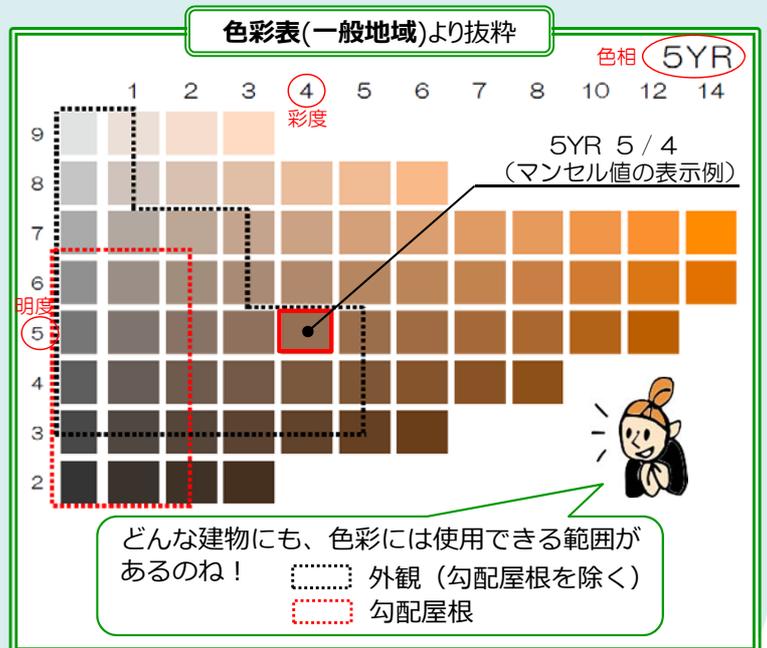
◆ 周辺環境への影響が大きい一定の行為については、事前の届出が必要です！

一定規模(特定中高層建築物※又は延べ面積1,500㎡)を超える建築物および工作物について新築、増築、修繕、塗装などを行う際には、行為の30日前までに届出をすることを義務付けています。  
※専用住宅を除く3階建又は高さ10mを超える建築物

◆ 届出対象行為については、「景観形成基準」(色彩基準など)に適合しない場合、勧告や変更命令の対象となります。

- ・色彩は、色相・明度・彩度を記号と数値で表したマンセル値で表示ができます。
- ・本市では用途地域に応じ、4つの**色彩表**を設定し、使用できる色彩を制限しています。

- ①一般地域
- ②商業系用途地域
- ③工業系用途地域
- ④市街化調整区域





# 景観賞受賞者に聴く

Vol.4

このコーナーでは、歴代の景観賞受賞者に、どのような景観づくりを行っているのかお話を伺います。

今回は、第8回受賞者の

千葉商科大学 政策情報学部  
朽木 量 ゼミナール

さんです。

## ☆受賞理由☆

学生の目線からの地域景観の発掘、情報発信を通じて地元住民への景観意識の向上に寄与した。



## ☆活動紹介☆

### 地域情報誌『中山参道どっと混む』 を通じ、地域景観を啓発

#### ①お散歩マップの配布！

平成23年の中山街回遊展に参加。商店街、寺社、文化遺産、歴史など学生たちが自ら調査した情報を基に、お散歩コンシェルジュとしてお客様のニーズにあわせてお散歩用のマップをその場で作成、配布しました。

#### ②更なる情報集め！

お散歩マップをきっかけに集めたデータを使って、地域の活性化に貢献したいという思いから、地域情報誌の作成を計画。学生たちが現場に何度も足を運び、寺町ならではの景色や中山参道地区の環境整備事業など、よりたくさんの情報を集めました。

#### ③『中山参道どっと混む』の発行！

おすすめの景観ポイントなど、独自の視点でまちを紹介。更に、無料で配布することで、中山地区の景観について、広く知ってもらうことに貢献しました。



#### ④活動の継続！

1回かぎりの活動で終わるのではなく、視点やエリアを変えて、地域情報誌を更に発行。「市川細見記」では、目立つスポットの少ない市川三丁目周辺をとりあげ、地域の方たちから好評を得ました。最新刊は「Ichikawaミュージゼ街あるき」。地域の活性化への貢献に、取り組み続けています。

### 『中山参道どっと混む』作成の きっかけは？

「みんなにとって使いやすい地図は、みんなにとって使いにくい地図」との思いから、中山街回遊展でお散歩コンシェルジュを行ったことがきっかけ。その後、調べてきた色々な情報を残していこうと考え作成した。冊子にした理由は、当時中山地区を紹介する地図はあったが、冊子はなかったため。

調べたことが地域の活性化に繋がり、人がいっぱい訪れるといいなどの思いをこめて「中山参道どっと混む」という名称にした。

### 今後、どのような取り組みを 行っていきたいか？

新しいものとマイナーなものを結び付けることが、面白いのではないかと考えている。

例えば、市に新しくできた「道の駅いちかわ」と、千葉商科大学を結ぶ道のり。その道中には、まだ知られていない景観を含めた情報がたくさんある。そういった見過ごされがちな情報に敢えてスポットライトをあてることで、読む方に景観を意識していただくきっかけとなる冊子になると思う。

### 朽木 量 教授



### 啓発活動や冊子の発行によって、 感じた効果は？

地元の方も知らない情報を入れることで、読んでくれた方たちが、地域に対して興味を持ってくれるようになったと感じる。例えば、普段は何気なく通りすぎる店舗や公園に目を留め、そこへ行ってみようとするようになってくれた。

このことにより、地域への関心や愛着が生まれ、「まちを綺麗にしていこう」というような活動にも結び付いていった。

### 冊子を手にした人たちに、どの ように活用して欲しい？

読むだけでなく、それを手にまち歩きをしてもらいたい。

そうすることで、私たちが載せていなかった情報を更に発見してもらい、地域の景観について考えるきっかけとしてほしい。

### ゼミナール生 大石 果菜さん



### 今後の活動で、工夫したいことは？

景観賞を受賞した先輩たちは、大学周辺の身近な地域の中で、普段気付けないところに目を付ける視点が鋭いと思った。この視点は、私たちが冊子を作る際に苦労した点でもあり、これからの課題のひとつ。

今後も冊子を読んでくださる方には、更に面白いと思ってもらうためには、先輩たちの拾い上げていったハードの部分の補完し、ソフト面を充実させる必要がある。私たちは、地域の方や、場所を形成している人たちの“思い”というソフトの面にスポットをあて取材をするよう心がけていきたい。

### 市川市での活動を通じて、思うことは？

昔からの歴史と、今の暮らしがうまく共存していて、その要素がまちなかにあるのがすごくいい。景観を絡めたイベントに、市民の方も積極的に参加していて、日常的に親しみを持って景観に触れているように感じる。

また、市民の方に市川市の良いところを質問すると、有名なスポットだけでなく“自分の好きなところ”を教えてくれる。それも、このまちの魅力のひとつだと思う。